

事業所名		リトルジェム植木				支援プログラム		作成日		令和7	年	2	月	15	日
法人（事業所）理念		一人ひとりが自分らしく輝くことでそばにいる人を大切にし、思いやりの連鎖を生み出す。 ～模範と責任～ 私たち（職員）自身が自分らしく輝き、子どもたちを尊重すること ～自己尊重～ 子どもたちが自分のことを好きになり、その気持ちを大事にすること ～他者尊重～ 子どもたちが友達 の存在を認め、互いに尊重すること													
支援方針		・子どもたちが成功体験を積み重ねて自己肯定感が育まれるよう、肯定的な言葉がけや関わり方を心がける。 ・粗大運動で体力や体幹などを身に付け身体の土台を築きながら、学習や身辺面で必要な微細運動能力を育めるよう様々な活動を提供する。 ・長所を伸ばしながら苦手なことも少しずつ克服できるよう、本人の興味、関心、能力に合わせた教材を工夫し提供する。 ・子どもたちが日常生活をイキイキと過ごせるよう、生活リズムに配慮し、利用時間の調整や保護者への提案・助言を行う。 ・保育所、学校、医療機関、児童相談所、その他福祉サービス事業所と連携し多角的な視点からの助言を得て、支援に反映させる。													
営業時間		9 時		0 分		18 時		0 分		まで		送迎実施の有無		ありなし	
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	睡眠時間や午睡の要否に応じて、利用時間帯（午前・午後）を調整したり、食事や排せつ等の生活習慣が身につくよう支援したりして、お子様の生活リズムを整えます。 送迎時や来所時に健康確認を行い、その日の体調に配慮した支援を提供します。 日常生活動作（食事・トイレ・着替え等）が身に付くよう、生活の中で絵カードの提示や身体的補助、主活動の中で作業課題を与えるなどして支援を行います。													
	運動・感覚	トランポリン、ボルダリング、鉄棒、マット、平均台、バランスストーンなどの器具を用いた粗大運動を行い、体力・体幹・平衡感覚・空間認識力・ボディイメージを高めて感覚統合を促します。 縄跳びやボール（キャッチボール、玉入れ、ポッチャなど）などの道具を扱う運動を行い、協応動作やリズム感、強弱の力加減などの感覚が身につくよう支援します。													
	認知・行動	散歩や外遊びを通じて、視覚、聴覚、触覚等の感覚を十分に活用し、認知機能と危険認識力を育みます。 ビジョントレーニングを通じて、視覚機能と集中力の向上を促します。 パズル、タングラム、聞き取りゲーム、マッチング、場所当てゲーム、コグトレ等の教材を用いて、物の機能や属性、形、色、音、大小、上下左右の区別、数の概念の形成を促します。													
	言語 コミュニケーション	絵カードやクイズ、お買い物ごっこ等を通じて、日常生活で使える言葉の数を増やします。 要求言語（「ちょうだい」「やめて（否定）」「手伝って（援助）」）、感情・感覚の言語（「つかれた」「あつい」）、反応の言語（「かして」→「いいよ」）等のコミュニケーションスキルを身に付け、相手に伝える・伝わる感覚を育みます。 来所時には毎回、ラミネートされた自分の名前の並べ替えやなぞり書きの課題を提供し、文字の読み書きへの慣れや興味・関心を持てるよう支援します。また、塗り絵やお絵描き、ぐるぐる定規などの遊びを通して筆圧を強くします。													
	人間関係 社会性	クマ歩きなどの動物模倣やダンス等を通じて人の動きを模倣することにより、社会性や対人関係の芽生えを支援します。また、ままごとなどのごっこ遊びを通して職員や友達と一緒に遊ぶ楽しさを育みます。 鬼ごっこやドッチボールなどの集団遊びを通じて約束事やルールを学びながら、集団で遊ぶことの楽しさや友達と協力して達成することの喜びを感じられるよう支援します。 絵カードを使ったソーシャルスキルトレーニングを行い、トラブルや困ったことが起きた時など様々な場面での対応方法を学び、実生活でも応用できるよう支援します。													
家族支援		・日ごろから子育てや家族に関する困りごとへの相談援助を行い、必要があれば、行政機関などへ繋ぐ。 ・事業所設置のモニターで支援の様子を観察してもらい、お子様との関わり方等の相談援助を行う（3～6ヶ月に1回） ・親子活動や保護者会を開催して、親同士の交流を深めたり、グループでの相談援助やペアレントトレーニングを行う（3～6ヶ月に1回）。				移行支援		・就学前に保護者と一緒に学校見学に伺い、情報交換を行う。 ・移行支援シートを作成し、就園・就学先への情報提供を行う。 ・併行利用先との子どもの様子や支援内容の共有、利用日数や利用時間の調整を行う。 ・就学先（支援級・支援学校等）の進路や選択についての相談援助を行う。 ・TASP（発達評価シート）を使用し、就学後の不適応に関連する指標を数値化し、保護者が就学先を選択する際や就学先への情報提供に役立てる。							
地域支援・地域連携		・保育所、学校、医療機関、児童相談所、その他福祉サービス事業所との連携会議を開催する。 ・市や区が主催する協議会や研修に積極的に参加して情報共有を行う。 ・インクルージョン推進の取り組みとして、保育所との併行利用や移行に向けた支援を行う。また、地域で暮らす子どもとの交流を図る（公園や公共施設など）。				職員の質の向上		・定期的に内部研修を開催したり、外部研修の参加を促す。個別で外部研修に参加する職員は、全体での情報共有を行う。 ・業務に関する資格取得支援を行い、支援の質の向上に繋げる。 ・朝礼にて、GOOD&NEW（24時間以内に起きた良いことや新しいこと）を行い、物事に対する肯定的な視点や新たな気づきを得たり、互いの価値観を認め合ったりする時間をもつ。 ・食事会等、定期的に職員同士でコミュニケーションをとる機会をもつ。 ・柔軟な休暇取得等、働きやすい環境を整え、職員のQOLの向上に繋げる。							
主な行事等		・夏祭り、クリスマス会、親子レクリエーション、保護者会													